



令和元年10月7日発行  
旭市立第二中学校

TEL 0479-62-0049

FAX 0479-64-0049

学校教育目標 希望を抱き、よりよく課題を解決する逞しい生徒の育成

## 実りの秋、文武両道を目指して



台風15号の影響で千葉県では大きな被害が出ました。本校においても倒木や雨どいが壊れるなど被害がありました。保護者の皆様におかれましても大きな被害に遭われたご家庭もあるかと存じます。一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

さて、10月に入りまだ気温の高い日もありますが、窓から入ってくる風はだいぶ爽やかになってきたと感じます。過ごしやすいこの季節は、学習や部活動には最適な季節です。文武両道が実現するよう生徒への支援をより一層充実させていきたいと考えております。

学習については令和3年度に始まる新しい「学習指導要領」の完全実施に向けた移行期間となっています。「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。およそ10年に1度、改訂しています。生徒たちの教科書や時間割は、これを基に作られています。**新しい学習指導要領で目指すのは「社会に開かれた教育課程」の実現です。**学習指導要領には下記のように記されています。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようになるのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。



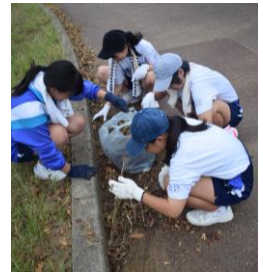
資質・能力とは右図に示された3つの力です。これからの時代がどんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そうした願いが新しい学習指導要領には込められています。そしてその実現には、社会（家庭）との連携及び協働が重要になります。この新しい学習指導要領の理念実現に向け、より一層家庭、地域との連携を密にしていきたいと思っております

（新しい学習指導要領リーフレットが文部科学省HPで公開されています。是非ご覧ください。）

【「紫輝」は旭二中ホームページではカラー版でご覧になることができます】

## 1年生オリパラボランティア活動

9月13日(金)にオリパラ教育の一環としてボランティア活動に取り組みました。オリパラ教育には、4つのプロジェクト(おもてなし、心のバリアフリー、スポーツ、グローバル)のうち、「おもてなしプロジェクト」を重視した取組として9/15, 16総合体育館で開催された世界ジュニア卓球選手権日本代表選手最終選考会にあわせて、学校で栽培した花のプランター(生徒の応援メッセージが書き込まれています)の搬入と、旭スポーツの森公園の清掃活動を行いました。台風15号の影響で、落ち葉や折れた枝が散乱する中、30分間熱心に拾い集め袋に詰めました。その数は100袋を超えました。「おもてなしプロジェクト」の目指す生徒像は、「ボランティアに積極的に参加する意欲をもち、温かいおもてなしができる生徒の育成」です。日本中から集まる卓球選手達を温かく迎えることができたと思います。



## 合唱コンクールに向けて

指導で著名な富澤裕先生を本校にお招きして、全校生徒に向けて合唱指導を行っていただきました。富澤先生の指導は、心に響く指導を通じて、生徒が持っている力を自らが引き出すような指導です。45分という短い時間でしたが、生徒は自分たちの歌声が、明らかに変わっていく体験をしました。10月25日(金)に行われる合唱コンクールでは、美しいハーモニーが体育館に響き渡ることを期待しています。

旭二中では夢を育むために心から感動できる良質な体験活動を行っています。

さる9月25日に合唱



富澤裕先生のTwitterのコメント

千葉県旭市の中学校訪問はとても楽しい時間でした。午前中2, 3年生と、午後は1年生と、それぞれ校歌だけを45分練習。校歌に想いを込めてのびのびと歌えるっていいですね

## 旭二中の歴史

創立60周年を迎える、旭二中の歴史に関わるコラムです。第2回目は「自彊不息」です。右の写真の石碑を見かけたことはありますか?そして、なんと読むかわかりますか?「じきょうふそく(やまず)」と読みます。

この石碑は当時、旧校舎の玄関前にありました。新校舎建築を機に、現在の位置に移されました。肝心の意味ですが、「自分からすすんでつとめ励んで怠らない。」つまり、自分を鍛えることをやめない、いつまでも自分を高め続けることの意です。この石碑の精神をずっと持ち続けて欲しいと思います。



↑どこにあるか探してみてください



当時は築山の一角にありました